The Entomological Society of Japan

高橋良一博士を偲びて

南　川　仁　博

本会名誉会員元大阪府立大学農学短期大学教授農学博士高橋良一氏は昨年8月から声帯がんのため，治療なされていたが，昭和38年7月17日午後6時50分に東京医科大学病院で65歳の生涯を終られた．まことに痛惜おく能わざるところである．

大正5（1916）年に札幌第一中学校を卒業されたが，蒲柳の体質だつたので，親戚の宮部金吾博士から健康上，上級学校に行くことを断念させられた．幼少時代から頭脳明晰で学績優秀で，また父君の血を引いて語学が堪能であつた．これが君の研究上大きな原動力となつた．少年時代から昆虫がすきで，小学校のころ雑誌「少年」の昆虫標本の懸賞募集で入賞し，銀メタルを貰つたので益々昆虫熱がたかまつた．少年時代は父君が北海道農事試験場病理昆虫部長だつた関係上，試験場の構内官舎に住んでいたので，病理昆虫部の研究室に遊びに行き，昆虫主任の岡本半次郎博士や助手の方々の仕事を面白く見物したり，昆虫の教えを受けたりした．同じ中学の2年上級に同好の桑山覚博士がおられたので，一緒に昆虫採集されたりした．大正6（1917）年に農商務省林業試験場に初めて勤務することになり，矢野宗幹先生の下で森林昆虫の研究に従事し，いよいよ昆虫学者としての第一歩を踏み出した．1918年に動物学雑誌に「蚜虫の3種に就て」を発表した．私はそのとき初めて高橋の名を知つた．大正9（1920）年に宮部博士から素木得一先生への口添で，台湾総督府農事試験場昆虫部に勤務することになり，素木先生の下で昆虫研究に従事した．博士が赴任されたときは私は昆虫調査のため紅頭嶼に出張留守中で，帰場したら博士が既に来ておられた．博士は身長1.72 m内外の長身で，やせがたで，いかにも弱わ弱わしくみえたが，健康で，台湾在住20余年間一度も病気したことはなかつた．私は博士から日本内地の昆虫学者の動静や研究などを聞かされ，啓蒙されることが大きかつた．博士の仕事は昆虫部の図書整理が主で，他は専ら自由に研究をやられた．アブラムシ，カイガラムシ，コナジラミ等の分類学的研究の英文の膨大な農事試験場報告が次ぎ次ぎと発表され，世界的に令名が高くなつた．研究や報告書の出版については素木先生のなみなみならぬ御庇護によるものである．昭和8（1933）年にアブラムシの研究報文で九州帝国大学から農学博士の学位が授与された．当時としては中学校卒業の学歴で35歳の若年で学位を得たのは異数であつた．これによつても博士の研究が如何に高く評価されたかがわかる．博士は採集がすきで，健脚で，閑さえあれば採集に行かれた．アブラムシ，カイガラムシ，コナジラミ等の採集は実に上手で，またこれのプレパラート標本も見事であつた．分類学の他に生態学的方面の観察やまた昆虫学研究史にも興味を持ち，この方面のすぐれた幾多の研究報告がある．

台湾の山岳地帯に五倍子が産するので，素木先生の命令で，それの利用価値について調査したが，台湾では産業的になりたたないとの結論に達した．また大阪の日本シエラック工業株式会社の依頼で，ラックカイガラムシを台湾に輸入して繁殖させる目的で1941年にタ

NII-Electronic Library Service

The Entomological Society of Japan

イ，マライ等に行き，タイからラックカイガラムシを輸入して，台湾の南部にラック会社で飼育場を設置して増殖を行なつた．終戦とともにこの事業はそのままにして職員は引揚げたが，その後，ラックカイガラムシは土着し，順調に繁殖して現在では台湾から日本にラックの原料が毎年数トン輸入されるようになつた．

博士は昆虫以外にはほとんど趣味はなかつたが，碁を少しやつた．それも碁石を列べる程度で強くはなかつたが，御自慢だつた．酒は全く飲まなかつたが，煙草は愛用された．身なりには全く無頓着で質素．性質は純すいそのもので，親切であつて友情に厚く，皆から親まれた．後進をよく導き，地方に旅行されるときは台湾時代の友人を必ず訪ね旧交を温めることを忘れなかつた．大正時代，東京にいたとき浮浪者の生活状態研究に興味を持ち，浮浪者の寝泊りする神社や寺などを廻つて研究されたことがある．

昭和17（1942）年に台湾から陸軍司政官としてクアラルンプールに行かれ，20（1945）年に終戦とともに東京に引揚げられた．暫く仕事がなく収入の道が全くなかつたので，土木の日雇人夫となつて土運びをしたことがある．人夫の親方が博士の力のないことをみて，身分が判明し，同情して帳簿記入係をやらせて貰つたとの述懐を語られた．その後，東京都調布にある米軍の水耕農場の害虫係もやつたが，日本シエラック会社の顧問になつて，資源科学研究所でアブラムシ，カイガラムシの研究ができるようになり，また横浜の植物防疫所調査課の嘱託として後進を指導された．ついで昭和29（1954）年に浪速大学（現大阪府大農業短期大学）に勤務されるようになつて，はじめて生活の安定と本格的な研究生活に入つたが，思えば引揚げてから10年間は全く苦難な年であつた．

昭和38年3月末日で停年退職されたが，数年前からカイガラムシとコナジラミの研究は後進に譲り，専らアブラムシの研究に専念され，日本産アブラムシの研究の完成を期し，またわれわれもそれを期待していたが病魔のためにたおれたことは誠に残念である．

会　　報

評議員会記事

1963年8月25日新潟市小三会議室において評議員会を開催し，総会の議題につき審議がおこなわれた．

（出席者）　北海道：（中島敏夫，高木貞夫），東北：（欠席），関東：朝比奈正二郎，長谷川　仁，井上　寛，野村健一，岡田豊日（野口圭子，上野俊一），東海：弥富喜三，大町文衛（広正義），信越：小泉清明，八木誠政（小山長雄），近畿：（笹川満広），中国：村山醸造，杉山章平（河田和雄），四国：中条道夫，石原　保（宮武睦夫），九州：白水　隆，安松京三，（平嶋義宏，日高輝展）．（カッコ内は代理者および幹事）

8月27日の総会では次の事項が報告ならびに議決された．

報　　告　庶務，会計，編集，渉外，各支部

主要報告事項

1）　開会に先立ち去る7月17日急逝された高橋良一博士を名誉会員に推薦した旨の報告

NII-Electronic Library Service